

クラブバンクの水産資源管理に関する日・タイの国際比較研究

岩崎慎平

福岡女子大学国際文理学部環境科学科環境生活学研究室

① 背景



- ・世界的な水産資源枯渇の懸念増大(ワタリガニ含む)
- ・小規模漁業の零細漁民: 約2億人。貧困率が高い
- ・途上国地域では水産物が重要なタンパク源

➡ 水産資源の持続可能な利用を通じて零細漁民の貧困削減が必要



- ・獲る漁業→責任ある漁業 (Responsible Fisheries)
- ・漁業者主体でワタリガニの個体数を増やす日本発の資源管理手法が**クラブバンク**と称してアジア(特にタイ)で普及・発展

➡ **クラブバンクの活動実態や同手法の有効性を検討する必要あり**

② クラブバンクとは

漁業者が抱卵ガザミを保護する取組。ゾエア幼生が孵出するまでの間、とるなマークなどの標識を用いて海に放流、または一定期間飼育した(預けた)後に雌ガニを出荷等する。



①



②



③

- ① 標識マーク後、抱卵ガニを海に放流。脱皮するまでの間、再捕獲した抱卵ガニは海にその場で放流される。
- ② 海中で抱卵ガニを飼育。ゾエア幼生はその場で海中に放出される。飼育後、雌ガニを放流または出荷。
- ③ 陸上でタンクや池で抱卵ガニを飼育。海水、酸素供給、装置は不可欠。飼育後、雌ガニを放流または出荷。

③ 研究目的・内容

以下の①～③を行い、クラブバンクに基づく漁業者主導の持続可能な水産資源管理モデルを提案することを目標とする。

- ① クラブバンクの史的展開の整理
- ② クラブバンクの活動実態の定量的評価
- ③ クラブバンクの継続性を支える要因に関するケーススタディ実施

上記に向けた研究を遂行する予備研究として、本学助成を得て2020年度において、(A)日本での予備調査、(B)タイ国での予備調査、(C)外部資金獲得に向けた研究申請、等を実施。

④ 研究活動報告

日本での予備調査

クラブバンクの文献調査、ヒアリング調査(2団体)を実施。活動経緯、管理方法などを情報収集。

タイ国での予備調査

マヒドン大学との共同研究に基づき、クラブバンク団体の特定(61団体)および活動評価のためのアンケート調査を実施。

申請・冊子制作

左記活動を踏まえ、科研に研究企画書を申請。その他、海外関係者と連携して、カニ保全マニュアル冊子の制作を開始。